

平成 22 年度 第 3 回 平塚市博物館協議会 会議録

開催日時

平成 23 年 3 月 11 日（金）14 時～15 時

開催場所

平塚市博物館 特別研究室

会議出席者（敬称略）

会 長 立山 洋典

副会長 牧野 久実

委 員 村松 芳雄、石綿 進一、毛利 加代子

事務局 金子教育長、橘川社会教育部長、鷹館長、澤村館長代理、石森担当長

会議の概要

1. 会長あいさつ

会 長 早速議題に入りたいと思います。本日も活発なご協議をよろしくお願いいたします。

2. 議 題

(1) 報告事項について

1. 平成 22 年度毎月の入館者数（速報値）及びプラネタリウム観覧者状況

2. 第 12 回博物館まつり結果報告

3. 平成 22 年度冬期特別展「開運！招福！相州だるま」開催結果報告及び

平成 22 年度春期特別展「深海から生まれた湘南」開催要項

以上について、鷹館長、澤村館長代理から協議会資料により説明。

〔質疑応答〕

館 長 報告事項としまして、大きなお話を一点させていただきます。プラネタリウムの改修工事のため、昨年 11 月末から投影を休演しておりましたが、12 月 7 日に、ドームのスクリーンの裏側にアスベストの吹きつけが見つかり、急遽アスベストの除去工事が必要となりました。除去作業については、2 月初めから始め、2 月末に終了しました。その期間は休館といたしました。このおよそ 12 月から 2 月末までの期間、改修作業がほとんど止まりましたため、プラネタリウムの再開予定が 2 か月ほどずれることになりました。当初の予定では 3 月半ばの春休みには間に合わせるつもりでしたが、現在の予定では 5 月 21 日を目途に再開できるようにしたいと考えております。今は新たなスクリーンを張り替える作業をしているところです。最終的にプラネタリウムがどのような構造になるかということですが、資料にありますような CG による想像図のような感じになります。真ん中にある棒のようなものが星を映すものです。これは光学式のプラネタリウムでして、太陽や月や惑星は本体に付かずに、手前の方に並んでいる丸い桶のようなものに収まります。そのほか大型のビデオプロジェクタが入り、デジタル・プラネタリウムをお楽しみいただけるようになります。また、車椅子が通り抜けしやすいように、また年配の方のご利用が増えていることなどから、ご利用しやすいように通路を広げました。何とか二学級が入るようにしたいと考えていたわけですが、これにより、座席数が 86 席から 70

席に減ることになりました。以上、プラネタリウムの再開が2か月ほど遅れることのご報告が遅れましたことをお詫びいたしますとともに正式にご報告申し上げます。

委員 私のイメージでは投影機を座席がぐるっと囲むというものなのですが、この資料で見ると、今はこういう形式が多いのですか。

事務局 これは座席が一方向を向く形式で、みんなが真ん中に向いて座る同心円状の配列ではなく、最近のオーソドックスなスタイルです。ただ座席数は同心円のほうが座席を効率よく並べられるので多く作れますが、一方向スタイルにしないと、デジタル映像を映した時に、後ろ向きに映る座席が出てきてしまいますので、こういう形にしました。

委員 星を見る時は、一方向形式で影響がないですか。

事務局 傾斜をつけて、上を見やすいような座席になっていますので、ちょっと首をうしろに傾ければ北極星も見ることができます。

委員 方位的には南を向いて、ということで設定されているわけですね。

事務局 東から南の空、そして西に沈むという南の星の動きを見せられるようにしないといけないので、どうしても南向きになってしまいます。

委員 今は、正面を向いてプロジェクタで映したスクリーンを見る、というのが主体になっているわけですね。

事務局 新しくなった名古屋や渋谷のプラネタリウムでは、真ん中を向く形式は、もちろん、それはそれで良い面がありますので、従来の形式を通していますが、私どもはコンサートや講演会などを行うことも考え、前方にそのスペースを空けておく形にしました。

委員 70席ではもったいないという感想がありますが、スペースを広げられないのですから、しょうがないですね。

事務局 座席の配列方法によって、確かに、以前の平塚のような同心円状ですと座席がたくさん入るのですが、先程来あったように授業のケースや、今も一般向けの投影で行なっている「映像」をお見せするという機能を考えますと、一方向配列ということになります。そうしますと、部屋の前方では、前を向いた座席からスクリーンを後ろに見るような角度になってしまいますので、どうしても前方のスペースを空けておかなければなりません。そうすると座席が減ってしまいますので大きな犠牲になりますが、空いたスペースを講演会や演劇やコンサートなどに活用し、長所を生かしていきたいと考えております。

委員 博物館まつりですが、期間日程を延長しても一日平均の人数がほぼ同じような割合で増えているのはすごいなと思います。日程を延ばしさえすれば増えるというものではないと思うので、継続していらっしゃるのすごいなと思いました。リピーター率というのはわかりますか。

事務局 リピーター率については調査しておりませんが、あくまで博物館の入口で受付がカウントした数字になっています。推測になりますが、繰り返しおいでいただいている方も少なくないと考えております。190人の方が新たに毎日いらしているわけではなく、入れ替わりながらいらしているということだと思います。

委員 博物館など公的機関では入場者数がすぐ数字になって出てきますから、チェックを受ける対象になっているのかなと思います。こちらの博物館の場合、これまで年間入館者数はこの5万人～6万人という数字で推移しているのか、またはここに来て増えているのか減っているのか、全体的な流れを教えてくださいませんか。

事務局 おおまかな傾向を申し上げますと、開館当初はかなり多かったことに比較して、現在の水準はやや下がって8割ぐらいの数字になってきております。この10年ほどは、一度下がった人数がやや持ち直している傾向にあります。平成12年前後は5万人台を中心に推移していましたが、この5年間では、平成17年度は7万4000人、18年は7万3000人、19年は7万2000人、20年は6万7000人、21年は6万人ということで、ちょっと下がっているところですが、17年をピークに比較的數字を持ち直しているという結果になっております。

事務局 1階・2階でそれぞれ1フロアの展示替えを10年ほどの単位のなかで行っていますので、博物館の展示は5年おきに何かしら展示が替わっていることになります。替わった時点で数字が上がって、まただんだん下がって、また上がって下がってというように、5万人から7万人のところで上下を繰り返しています。21年度で大きく減ったのは新型インフルエンザの影響がありまして、9月以降、目に見えて減りました。今年もインフルエンザは流行して学級閉鎖されたりしているのですが、みなさん来られているようです。21年度は修学旅行が取りやめになるなど、大変な騒ぎになりました。そうした世の中の流れにも影響を受けるようです。

事務局 なお、先ほど17年度からの数字を申し上げましたが、17年度春に1階の展示改装をしてリニューアルオープンしまして、そこで大きく人数が増えております。

委員 博物館まつりのアンケート調査のなかで、「つまらない」という結果も出されていますが・・・

(地震発生で中断)

(事務局、館内見回り。村松委員退出後、議題(3)を先に再開)

(3) 平成23年度予算について

以上について、石森担当長から協議会資料により説明。

[質疑応答] なし

(2) 平成23年度事業計画(案)について

1. 特別展
2. 寄贈品コーナー
3. プラネタリウム
4. 体験学習
5. その他

以上について、鷹館長から協議会資料により説明。

[質疑応答] なし

(4) その他

今回は5月中旬以降を予定。